

シンガポールシンポジウム報告書

今回シンガポールで開催されたシンポジウムでは、様々な分野の先生方のお話を聞くことができた。私自身は炎症疾患を扱った研究をしており、シンポジウムに参加された先生方はケミカルバイオロジーや生物物理系の研究者が多く、自分の普段関わる分野と違うため、新鮮に感じられた。同じような分野で研究されている先生も何名かいらっしやり、中でも Dr. Irmgard Forster による”Environmental regulation of immune responses through the AhR/AhRR sensory system”はお話を聞いて勉強になったと感じている。Dr. Forster は DSS 腸炎における免疫細胞の AhR の研究をされている。今回は AhRR という Arnt という Ahr のリガンドとの結合に関し AhR と拮抗することで AhR の抑制因子として働く因子の KO マウスにおいて、DSS 腸炎が増悪するというお話をされた。また、AhRRKO マウスでは、CD4+T 細胞のサイトカイン分泌プロファイルが変化しているということであった。私は、腸炎についても勉強をしており、また少し前に獲得免疫系の細胞における AhR が免疫細胞の分化の制御に関わるという論文を読んだことがあり、興味深くお話を聞かせていただいた。私が以前読んだ論文では、EAE など他の自己免疫性疾患のモデルマウスにおいて Ahr 刺激が Treg 分化を促進し、逆に Th17 の分化を抑制するという経路により保護的作用をもつという内容が示されていた。今回の先生の結果では、Ahr のリプレッサーの KO で腸炎が増悪しているということから、以前論文で見た結果とは方向性が逆であるため意外に感じられた。先生はお話の前半に研究の背景知識として、腸内の免疫細胞についても説明された。腸は他の組織と比べ免疫細胞の種類も多く、免疫機構も複雑であるため、独学で勉強するには難しく苦労していたため、詳しい先生の説明が少しでも聞くことができ良かったと思う。また、シンポジウムでは連日お昼に立食形式で参加している先生方と交流することができた。研究のお話し意外にも、現在シンガポールで研究されている方のキャリアの話などを聞くことができ自分の将来の参考になると感じた。